

AirWatch でモビリティ戦略を強化した グラハム建設

課題

グラハム建設は、1300人以上の社員が、現場においても最新技術機器が使える状態を維持できるよう心がけています。しかし、IT部署の規模は小さく、新しい技術を導入する度に、サポートの時間とリソースへのインパクトを注意深く見積もらねばなりません。グラハム建設のインフラアーキテクトであるグレン・コールマン氏は、技術で社員の生産性を高める新しい方法を模索しており、モビリティで如何にビジネスプロセスを変革できるか評価を開始しました。グラハム建設で以前使われていたのは BlackBerry デバイスでしたが、コールマン氏はマーケットにある他のソリューションの方が、社員により多くの機能を提供できることに気が付きました。彼の目標は、現場での社員の生産性を高めつつ、サポートのリソースを最小限に抑えるという点に据えられました。

導入効果

グラハム建設が使っていたのは BlackBerry Enterprise Server (BES) 5 でしたが、BES 10 にアップグレードした結果、機能が不十分であることがわかりました。アップグレードはプロセスに長時間かかることに加え、iOS デバイスをサポートしていなかったのです。しかしコールマン氏は、その機能や今後のアプリケーション開発の面からも、iOS というプラットフォームを必要としていました。これらの課題に直面して、コールマン氏率いるチームは、より良いモビリティ管理ソリューションを求めて市場調査を行うことを決めたのです。広範にわたる調査の結果、モビリティを通じて社員の生産性を上げるためにグラハム建設が選んだのは、AirWatch® by VMware®でした。「当初は、あくまで BlackBerry の代替品を探つもりでした。」とコールマン氏は言います。「しかし調査を続けるうちに、市場にはさらに良い機能が存在していることを知ったのです。そして AirWatch を試してみようということになりました。」グラハム建設では最初の数ヶ月間で 700 台以上の iOS デバイスを社員に展開しました。そして、経過が順調なことを確認すると、1ヶ月毎に 100 台ずつデバイスを追加して、Blackberry デバイスと置き換えていったのです。

グラハム建設のモビリティ戦略で最も大きく改善された点の一つは、それまで紙媒体が主だったコンテンツを AirWatch® Content Locker による電子データ配信に置き換えられるようになったことです。AirWatch 導入前は、設計図を印刷してプロジェクトマネージャーに配布していましたが、複数の現場に配布するには不便で、変更があった際には印刷し直さねばなりません。Content Locker が導入された今では、書類や設計図が常に最新の状態で保たれ、複数のチームが即時に電子化されたデータにアクセスできます。これは劇的なコスト削減に繋がりました。「AirWatch Content Locker を導入した最初の 15 台のデバイスによって浮いた紙代と印刷代だけで、15 万ドル以上の経費削減になりました。導入デバイス数が増えるにつれて、書類に変更があった際に余計な紙を印刷しなくて済む分、どんどんコスト削減が進んでいくでしょう。」とコールマン氏は話しています。また Content Locker は、グラハム建設の既存のコンテンツリポジトリと統合されており、社員がいつ、どこからでも自分のモバイルデバイスで書類にアクセスできるようになっています。



事例概要

- ・カスタマー名：グラハム建設
- ・業種：建設
- ・導入地域：北アメリカ
- ・導入ソリューション：MDM、MAM、MCM、MEM、MBM
- ・インフラ統合：Microsoft ActiveSync、Microsoft SharePoint、ファイルサービス
- ・デバイス数：500 – 1,000 台

AirWatch は、グラハム建設の社員がモバイルデバイスから企業のリソースにアクセスし易い環境を作るのにも貢献しています。AirWatch 導入以前は、グラハム建設の社内ネットワーク内からでなければ、イントラネット上の情報を入手することはできませんでした。AirWatch® Browser を導入してからは、コールマン氏率いるチームが、既存の社員認証を用いてユーザー認証を行えるようになり、これによって社員はより安全かつ効率的に、ファイル共有や、社内メール、社内ウェブサイトへのアクセスを行うことが可能になりました。また、グラハム建設では、社員が社内ウェブサイトに利用できるよう、カスタム ウェブ クリップを配信しています。「AirWatch は、限られたリソースしか利用できない中、情報配信を可能にし、完全な社内統合を実現してくれました。私達が当初抱いていた期待を遥かに超えて、我が社のモビリティ戦略を進化させる力となってきています。」と、コールマン氏は話しています。

社員の生産性向上だけでなく、セキュリティを確保し、デバイスをグローバル規模で安全に保つのもグラハム建設の課題でした。AirWatch の堅牢なセキュリティと管理ツールによって、社員がモバイルデバイスで仕事する間もデバイス上の企業情報を守ることが可能になりました。コールマン氏のチームは、AirWatch のウェブ コンソールからコンプライアンス、パスワード、ネットワークング プロファイルなどを展開します。これらの設定はモバイルデバイスから情報にアクセスする社員がオフィスにしようと、プロジェクト現場にしようと、設計図やその他の企業の機密情報を守ります。また、社員権限情報と関連付けられたセキュリティ証明を用いて、モバイル認証プロセスをシンプルかつ強固なものにしています。自由にカスタマイズできる AirWatch のおかげで、コールマン氏率いるチームは、企業としてのセキュリティ要件と、社員の生産性向上に求める条件との間でバランスを取ることができたのです。

今後の展望

グラハム建設は、iOS デバイスを使っている社員からの反応がよいため、今後その要望に応じて iPad の配備を拡大していく計画を立てています。また、AirWatch を使うと、アプリケーションの展開が簡単にできることから、ビジネス用アプリの自社開発も検討しています。更にコールマン氏率いるチームは、社員に Apple の iBooks アプリを通じて社内報配信したり、AirWatchTV アプリで業界ニュースを配信することも考えています。グラハム建設は現在多くのサーバ インフラで VMware ソリューションを用いており、2014 年に AirWatch を買収した VMware が提供してくれる統合機能に期待を寄せています。

「AirWatch Content Locker を導入した最初の15台のデバイスによって浮いた紙代と印刷代だけで、15万ドル以上の経費削減になりました。導入デバイス数が増えるにつれて、書類に変更があった際に余計な紙を印刷しなくて済む分、どんどんコスト削減が進んでいくでしょう。」

グラハム建設
インフラ アーキテクト
グレン・コールマン